

インパクトコンソーシアム データ・指標分科会(第1回) 議論のポイント

【日時】令和6年8月 22 日(木) 13:30～15:00

【場所】オンライン開催

【次第】

1. 事務局説明
2. 座長・副座長・ディスカッションメンバーの紹介
3. 分科会の進め方(今田座長)
4. インパクト測定・管理の意義(今田座長)
5. 国内外データ・指標やプラットフォームの状況の概観(末吉副座長)
6. 社会課題解決におけるデータ分析(山口座長)
7. Q&A

【プレゼンテーションの概要】

(1) インパクト測定・管理(IMM)の意義(今田座長)

- インパクト測定・管理(IMM)には通常、①インパクト目標の設定、②インパクト戦略の策定、③インパクト指標や目標値の設定、④インパクト・マネジメントの実践という4つのアクションが含まれる。
- 以前、オックスフォード大学でインパクト測定プログラムを行っている Karim Harji 氏から、「How の前に Why & What を問え」というメッセージをいただいたが、なぜインパクトを測りたいのか、測定したインパクトを何に使うのかを問うことが重要である。
- IMM を行うにあたり指標(KPI)を設定する際には、その指標がどのように最終的なアウトカムやゴールに繋がるか、パスウェイ(経路)を考える必要がある。例えば、「持続可能で強靱な国土」というゴールに向けて、「地域の防災機能の強化」というアウトカムを達成したい場合、「自治体との防災協定を締結している施設の割合」という指標を設定するケースが考えられる。一方、指標がアウトカムやゴールに繋がるパスウェイには多面的な要素があり、指標は一つの正解があるわけではない。他に考え得る指標は何か、その指標に関するデータをどうやって収集するのかを考えることが重要であり、このような検討に使えるデータベースが必要である。

(2) 国内外データ・指標やプラットフォームの状況の概観(末吉副座長)

- IMM のプロセスでどのような情報やデータが使われているかについて、公開情報を基に、マッピングを作成した。不足している部分については、分科会にて情報をいただきながら、より網羅的なデータベースの整備を目指したいと考えている。
- データ・指標の整備に向けて重要なことは、①日本の文脈における課題と平仄のとれた指標の整理、②企業や組織が保有するデータについてデータ主権を侵害することなく活用できる枠組み、③IMM のステージ別に必要な多様なデータベースへのアクセスを容易にする手法である。

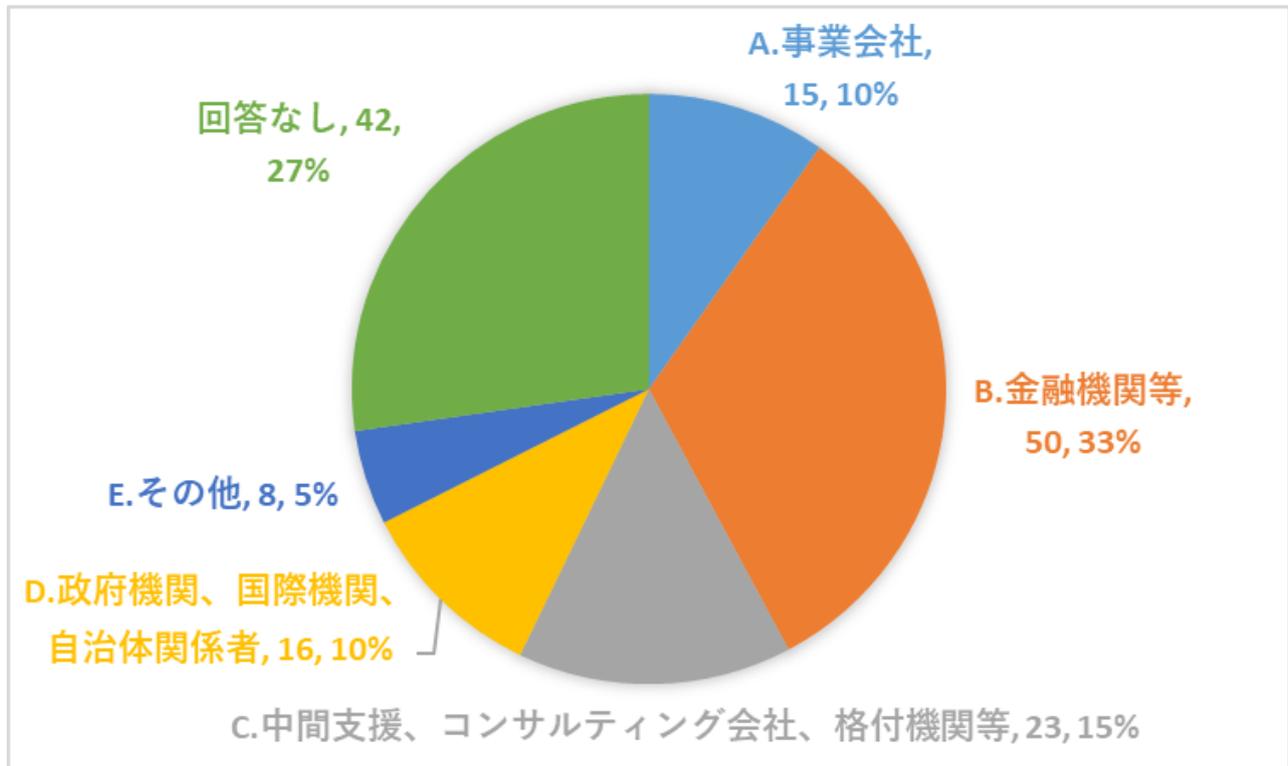
- インパクトを測定・管理するためには様々なデータが必要であるが、企業や組織が保有するデータのうち公開されているものは非常に少ない状況にある。このような中、最近では、企業や組織の垣根を越えて、データを共有・活用できるようにする「データスペース」という概念が広がり始めている。企業が保有するデータは多種多様かつ膨大であり、公開に対する懸念もある中で、信頼性のあるデータを皆が安心して目的に応じて活用できる仕組みを作ることが重要である。
- インパクト投資を行う主体はアセットマネージャーやアセットオーナーであるが、最終的な受益者(例:預金者、保険契約者)がインパクトを享受できているのかを把握することも重要である。また中長期的には、個社だけではなく、サプライチェーンの上流や下流の企業も含めて、実際のインパクトを把握することや、IMMのステージを横断して多様なデータにアクセスしていくことも考えられる。

(3) 社会課題解決におけるデータ分析(山口座長)

- インパクト投資やインパクトビジネスにおいては、事業により世の中にどれくらい変化を起こせたのか、その事業は社会的にどれくらい価値があったのかという効果測定を行う。指標をインパクトパスに沿って段階的に設定すれば、仮に事業が上手くいかなかった場合においても、中間的な指標の部分に戻って、事業の弱点を特定し、改善することができる。
- このような分析を行うにあたり、必要となる高精度なデータを網羅的に入手することや、因果関係の推定を正確に行うことは困難である。このため分析結果に基づく意思決定をする際は、現実的なデータ精度を理解し、信頼性についてはグラデーションがあることを踏まえる必要がある。
- データ分析の役割は現状把握と因果関係の推定にあるが、データを整えて使いやすい形にすることが出発点になる。質の高い意思決定のためにも、まずはデータ整備が重要である。

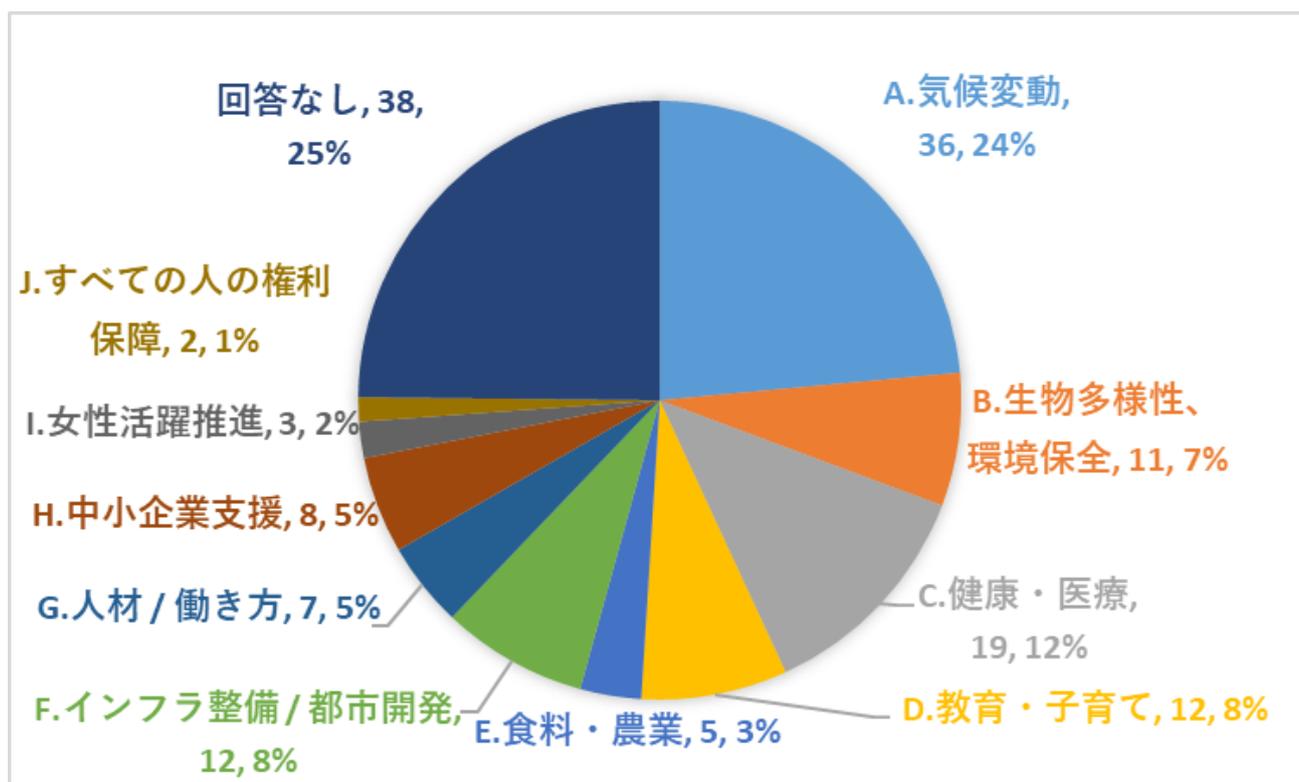
【Q&Aの結果】

(1) 属性を教えてください。



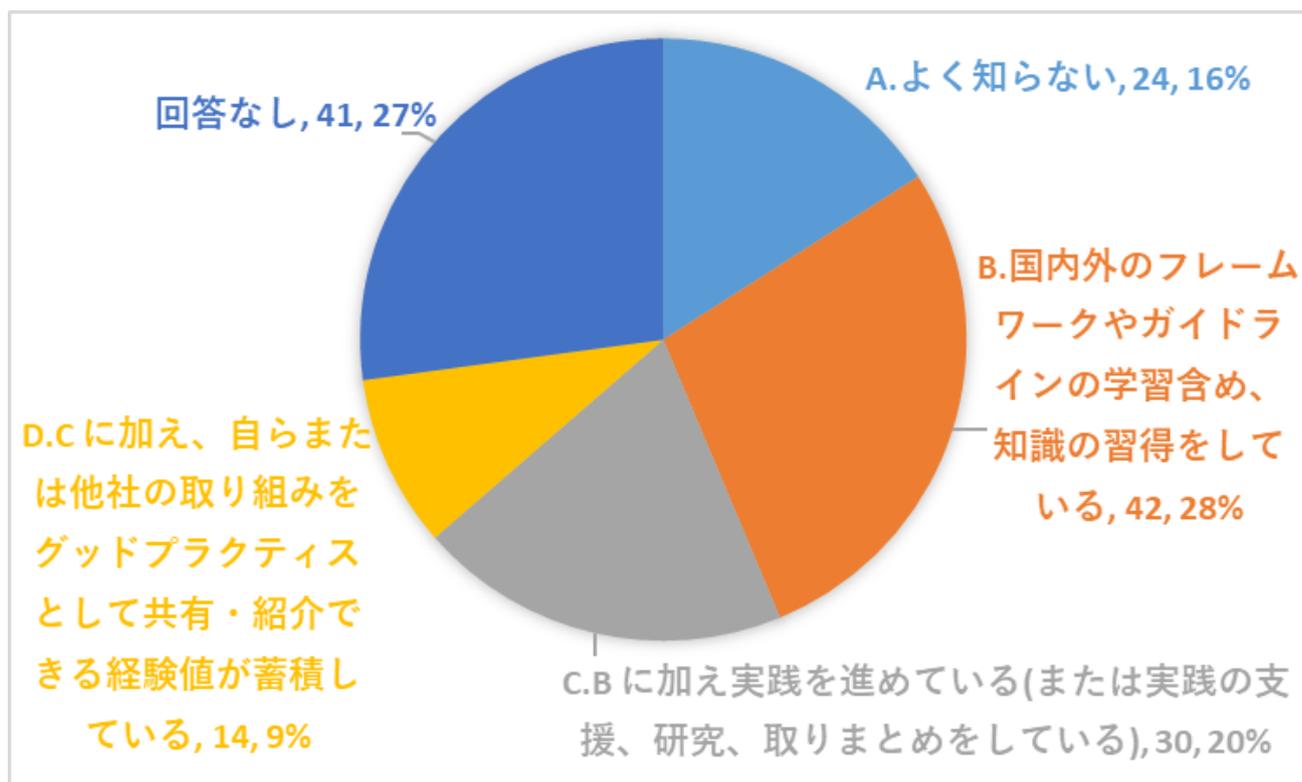
A. 事業会社	15/154 (10%)
B. 金融機関等	50/154 (32%)
C. 中間支援、コンサルティング会社、格付機関等	23/154 (15%)
D. 政府機関、国際機関、自治体関係者	16/154 (10%)
E. その他	8/154 (5%)
回答なし	42/154 (27%)

(2) 関心の高い課題は何ですか



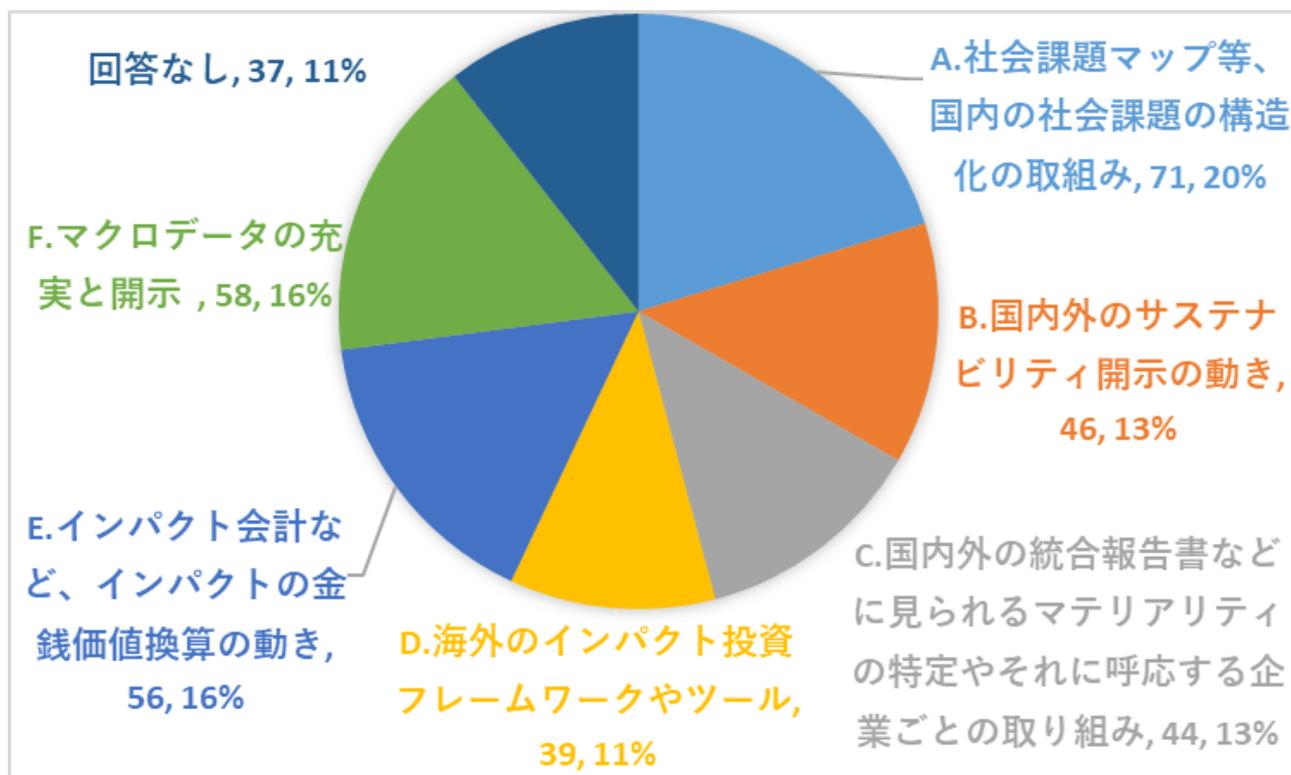
A.気候変動	36/153 (24%)
B.生物多様性、環境保全	11/153 (7%)
C.健康・医療	19/153 (12%)
D.教育・子育て	12/153 (8%)
E.食料・農業	5/153 (3%)
F.インフラ整備 / 都市開発	12/153 (8%)
G.人材 / 働き方	7/153 (5%)
H.中小企業支援	8/153 (5%)
I.女性活躍推進	3/153 (2%)
J.すべての人の権利保障	2/153 (1%)
回答なし	38/153 (25%)

(3) IMM(インパクト測定・マネジメント)についてどの程度の知識・経験がありますか？



A.よく知らない	24/151 (16%)
B.国内外のフレームワークやガイドラインの学習含め、知識の習得をしている	42/151 (28%)
C.Bに加え実践を進めている(または実践の支援、研究、取りまとめをしている)	30/151 (20%)
D.Cに加え、自らまたは他社の取り組みをグッドプラクティスとして共有・紹介できる経験値が蓄積している	14/151 (9%)
回答なし	41/151 (27%)

(4) 以下のうち、インパクトに関するデータ・指標の整備を進めるために注目すべきものや取り組みを強化すべきものはどれだと思いますか？(複数回答可)



A.社会課題マップ等、国内の社会課題の構造化の取り組み	71/111 (20%)
B.国内外のサステナビリティ開示の動き	46/111 (13%)
C.国内外の統合報告書などに見られるマテリアリティの特定やそれに呼応する企業ごとの取り組み	44/111 (13%)
D.海外のインパクト投資フレームワークやツール	39/111 (11%)
E.インパクト会計など、インパクトの金銭価値換算の動き	56/111 (16%)
F.マクロデータの充実と開示	58/111 (16%)
回答なし	37/111 (11%)